



NPO法人コメリ災害対策センター主催

防災講習会開催

共催／株式会社コメリ 後援／国土交通省北陸地方整備局様、新潟県様、新潟市様

防災講習会内容

<第一部>

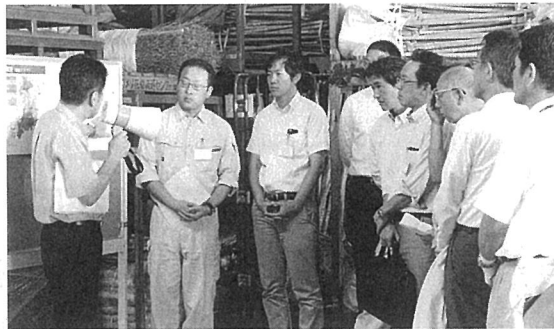
会場：コメリ本社

- ① NPO 法人コメリ災害対策センター
理事長挨拶
- ② 新潟流通管理センター視察
- ③ 福和先生講演会
「総力と本気の震災対策」

<第二部>

会場：コメリパワー新潟西店

- ④ 防災拠点の説明
(エアロシェルター・駐車場活用)
- ⑤ 災害時の代替品を簡単に作ろう
店内代替品売り場探索及び作成
- ⑥ 福和先生と防災用品を確認
- ⑦ 災害・防災についての質疑応答
(福和先生)



新潟流通管理センター視察。



名古屋大学減災連携研究センター長・教授 福和伸夫先生の講演。



防災拠点としてのコメリの大型店の駐車場活用について説明を行った。

NPO法人コメリ災害対策センターは、2005年の設立から今年で10年の節目を迎えました。この10年間の活動を通じ、災害発生時はもとより、平時から自治体様と緊密に連携していくことが重要であると感じております。そこで、この節目の年に自治体様との関係をさらに密にするとともに、防災知識のさらなる向上を目指し、2015年9月18日に防災講習会を開催しました。

新潟流通管理センター視察

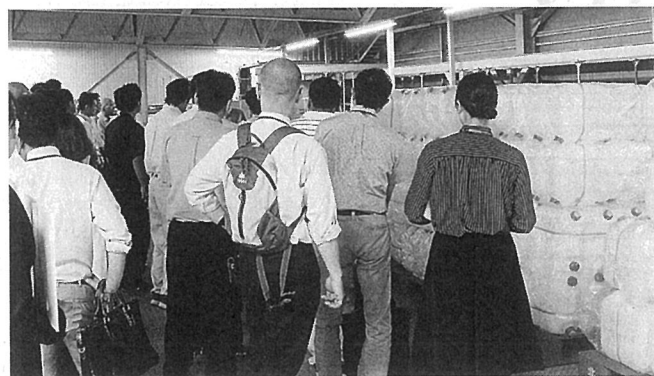
コメリグループの流通分野を担う、北星産業株式会社の新潟流通管理センターを視察していただきました。

視察に参加された自治体の皆様には、北は北海道苫小牧市から南は福岡県大牟田市までの全10カ所の流通センターで、全国1171店舗のコメリ店舗をカバーする北星産業の流通の仕組みをご説明するとともに、自動倉庫などの設備を視察していただきました。

また、災害発生時に大量に必要と



コメリ災害対策センター用の備蓄物資は、10カ所の流通センターすべてに保管されています。



流通センター内の商品在庫の様子や自動化された流通の仕組みを視察していただきました。

なるブルーシートや水缶など、NPO法人コメリ災害対策センター専用の備蓄物資を視察していただき、休日等の災害時の物資要請に対して、この備蓄物資をもつて物資の供給を行うこと、また、平日の災害で規模が大きく1カ所の流通センターの物資だけで対応できない場合は、他の流通センターからも物資を供給することで、大量の要請にも対応できる仕組みを整えていることをご説明しました。

福和先生講演会「総力と本気の震災対策」

51年前の新潟地震にて初めて注目された液化化現象について、そのプロセスと液化化になり易い地形の具体的な説明や、東日本大震災での津波被害が道路、空路へ及ぼした影響の大きさなどを多くの事例と写真を使い、わかりやすく説明いただきました。また、今後発生し得る大規模災害への取り組みのあり方では、見落としがちなポイント、建物の耐震化についてのポイントなどをわかり

やすく説明していただきました。最後に、「災害を減らし、克服して被害を防止する知恵は各自治体の中に蓄積されるべきであり、それは各自治体の思いにかかっている。地元を大事にし、防災に対してしっかりと提案し、答えを出して行くことが、災害による被害を減らし、日本を救うことに繋がって行くと考えている」と語られました。



名古屋大学減災連携研究センター長・教授
工学博士

福和 伸夫先生

1981年3月、名古屋大学大学院工学研究科修了。同年4月、清水建設入社。1991年4月、名古屋大学工学部助教授に就任。2012年1月から同大学減災連携研究センター長・教授、環境学研究科教授を兼務。
〈社会活動〉文部科学省：防災科学技術委員会、国土交通省：社会資本整備審査会・交通政策審議会技術部会、人と防災未来センター：上級研究員、名古屋市：地震災害対策専門委員会。

福和先生と 防災用品を 確認

災害時に役立つ

ホームセンター商品ご紹介

災害時はどのような物資が役立つのか、それらをどのように確保するのか、福和先生より説明を受けながら、コメリ店舗内にて確認しました。

講習会の最後のイベントとして、福和先生と一緒にコメリの売り場を回り、災害時に役立つ商品を一一つ解説していただきました。

災害時はライフラインが止まる場合があるため、そのような状況下でも使用出来る物資を日頃から知っておく必要があります。例として、ガスが止まった場合でもお湯を沸かしたりできるカセットコンロとガスボンベ、停電時でも電気を供給できる発電機があります。また、最近の暖房用品は電気が無いと使用できないものが多く、災害時においては、昔ながらの石油ストーブが活躍するなど、災害時に役立つ商品を紹介していただきました。

さらに、生活面で役に立つ商品

だけでなく、復旧活動に関わる業者の方が必要とされる物資の例として、東日本大震災の時に瓦礫や倒壊した住宅の釘などを踏み、怪我をしたケースが多くあったことから、身を守る安全靴なども必要であると説明をされました。

その他、多目的に使用できるブルーシートや、生活用水確保のための水缶などは災害発生直後から大量に必要になります。そのような商品が店舗でどれくらい在庫があるのかを日頃から確認しておくことが大切です。

また、店舗では被災直後は一般のお客様や復旧仕事を請け負う業者様への販売が中心となるため、自治体様が必要物資を必要量確保するということは難しくなります。各自治体の防災担当者は日頃から

災害が発生した際に何が必要になるのか、そしてそれらをどのように確保するのかを考えておく必要があることをお話されました。

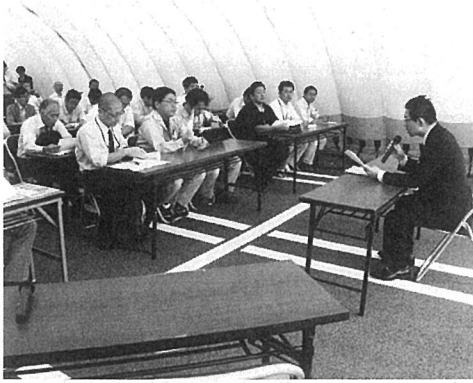
災害発生時、店舗で商品を調達することが難しい場合に備えて「どのように物資を発注したらよいのか、具体的に知りたい」や、色々な商品説明やその使い方を聞き「災害時の為に商品情報を共有して欲しい」といった貴重なご意見をいただきました。

.....
NPO法人コメリ災害対策センターでは、災害時には基本的に最寄りの流通センターより物資を供給します。一般のお客様への販売を断つことなく、要請自治体様へ物資を必要量届けることが可能となっております。



店内を回りながら、災害時に必要となる商品を解説する福和先生。

防災講習会開催



コメリの駐車場を防災拠点として利用する新しい支援協定のご提案をさせていただきました。



災害時の応急品の代わりになる商品がどの売り場にあるかを探索。

防災拠点の説明／店内代替品売り場探索及び作成

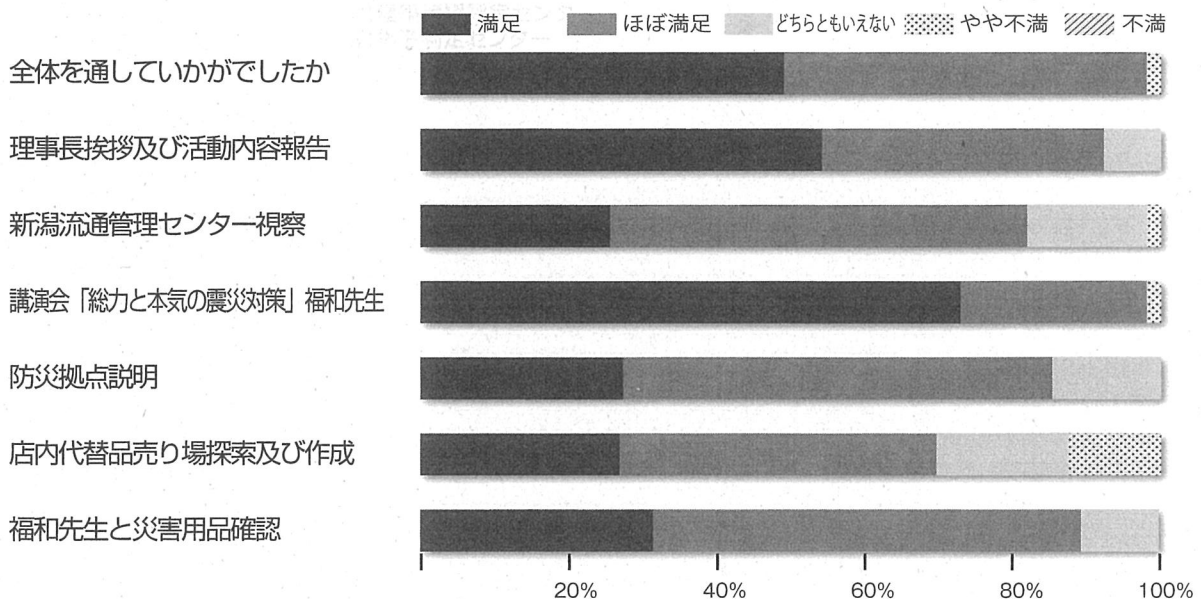
第二部の会場となったコメリパワ―新潟西店は、新潟県様や新潟市様との協定で防災拠点の1つとなっている店舗です。参加者の皆様には、店舗駐車場に設置したエアロシエルトーの中に入ってもらい、防災拠点としてコメリの駐車場を活用していただく新しい協定のご提案をさせていただきますとともに、災害時にはエアロシエルトーの貸し出しも行っていることについての説明を行いました。

その後、災害時応急品の代替品を作る時に必要となる商品が、どこにあるかを確認する店内探索を行いました。

「防災用品をじっくり確認でき、大変参考になりました」とか、「建物がつながないといざという時、逃げ遅れたり、物資の搬送に時間がかかったりして、防災拠点の役目をはたさない」といった意見がありました。店内探索が終わった後は、災害時の代替品を作成するグループと、福和先生と一緒に店内を回って災害時に役立つ商品を確認するグループに分かれて行動していただきました。代替品の作成に参加された方からは「身近な物で簡単に作れて楽しかった。住民の方でも簡単に作れるものをご紹介いただきたい」というご希望もいただきました。

アンケート結果

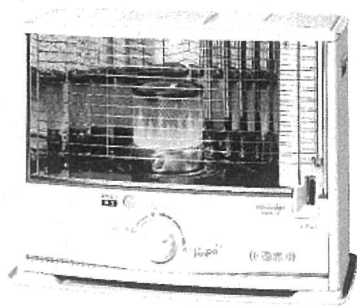
防災講習会へ参加された皆様に、今回の講習会の内容についてアンケートにお答えいただきました。その一部をご紹介します。



アンケートでは、全体的にほぼ満足いただけた結果となりました。特に福和先生の講演は大変有意義であったという感想をいただきました。講演会のグラフのやや不満は「時間が短かった」など、もっと聞きたかったという意見から来るものでした。この他にも多くの貴重なご意見をいただきました。これらを参考にして、今後の活動に活かして参りたいと思います。

防災講習会開催

福和先生が説明された主な商品



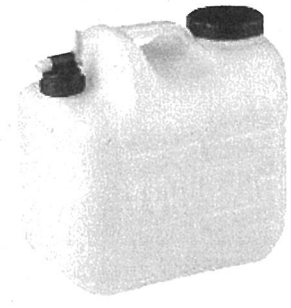
<石油ストーブ>

停電時は、現在一般的に普及している電気を必要とする暖房設備が使えません。昔ながらの石油ストーブを用意しておく必要があります。



<ブルーシート>

災害時に大量に必要なのがブルーシートです。損壊した家屋の雨よけや、避難所の敷物など、活躍の場は多いです。



<水缶>

断水が発生するような地震災害において、飲料水、生活水の確保は重要です。避難所をはじめ様々な場所で必要不可欠な物資です。



<発電機>

停電時はもちろん、屋外活動にも使用できる発電機は様々な場面で活躍します。色々な機能を備えた発電機がありますので確認してみましょう。



<ガソリン携行缶>

停電時の発電機使用には欠かせないガソリン携行缶です。発電機とセットで備えておくと良いでしょう。



<カセットコンロ/ボンベ>

ガスが復旧するまでの調理用コンロとして必需品です。ガスが通っていない状況下で避難生活を送る場合でも、食べ物や飲み物を温めることが可能です。



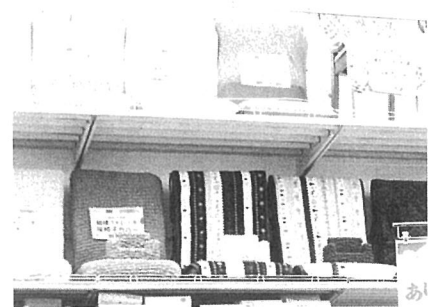
<蚊取り線香>

夏場の避難所の必需品です。現在では多くの商品が電気を使うものになっていますが、停電時の防虫対策では旧来の線香タイプが欠かせません。



<安全靴>

震災や水害の被災現場で活動する際は、瓦礫や釘などが散乱しているため普通のスニーカーでは大変危険です。工事現場などで使用する安全靴が役立ちます。



<座椅子>

避難所で床に座り続けることはお年寄りにとって苦痛で体に負担をかけることとなります。背もたれのある座椅子を避難所に用意しておくとう良いでしょう。



災害時に必要となる商品の仕様と、どの売り場にどのくらいの数量があるのか、確認を行いました。



日常とは違う商品の見方に、参加者の皆様は興味深く福和先生の話に耳を傾けていらっしゃいました。